



南陽小学校だより 「いい顔 いい声 いい心」 NO13

発行：令和2年11月27日（金）文責：校長 野田 浩司

南陽小学校 HP：<http://www.nagasaki-city.ed.jp/nanyo-e/>



## ○授業の充実が学力と学校力を高める

南陽小学校では授業の充実が子供たちの学力を高め、学校の総合力を高めることにつながると考え、教員同士が授業を見合う研究授業や、授業に対しての気づきや意見を交流し合う研究協議など授業改善に向けた取組を継続しています。徐々に成果が出始め、子供たちの成績の経年比較では、全体的に着実な成績の向上が見て取れます。

授業改善に向けた取組の一環として、先日、長崎大学教育学部附属小学校算数部の先生方をお迎えしての授業研究会を行いました。内容は、附属小学校の先生が飛び込みで2年1組と4年1組に入り、いきなり出会った子供たち相手に算数の授業をしてもらうというものです。もちろん、それまでに学習の進度等は担当同士で打ち合わせを行い、授業準備を進めていましたが、子供たちはそれぞれに算数の世界に没頭し、自分事として問題を解決しようと努力していました。

今年度から、学習指導要領が全面改訂され、その趣旨を生かした教育の実現を南陽小学校でも全職員一丸となって取り組んでいます。学習指導要領の前文には、子供たちを「持続可能な社会の創り手」として育てることが謳われていますが、そのためには、これまでのような「覚えたことをただアウトプットする再現のための教育」から、「自分で考えて問題解決をしたり、価値を見つけ出したりする創造の教育」への転換が不可欠です。

今回の研修で、授業づくりの考え方や、子供たちを学びの世界に引き込む様々な指導技術について学ぶことができました。今後も、様々な研修の機会をもちながら、私たち教員も学び続けていきたいと思っています。（裏面へ続きます）



## ○音楽鑑賞教室が行われました。

長崎で唯一プロとして活動している「長崎 OMURA 室内合奏団」(NOCE)による音楽鑑賞教室が、11月25日(水)に行われました。

なかなか文化的な行事が行えない中、体育館を会場に低中高の3公演に分ける形で密集を避け、換気等にも配慮をしたうえでの公演実現となりました。

子供たちは間近で奏でられる本物の音色に興味津々で、非常に貴重な体験となりました。途中、本校に勤務している二人の先生方もそれぞれビオラとチェロで演奏に加わり、子供たちもとても嬉しそうな顔で聴いていました。まさに「いい顔 いい声 いい心」あふれるコンサートでした。やはり芸術文化は人類にとって必要不可欠なものだと実感しました。

12月10日(木)19時から長崎ブリックホール大ホールで行われる「蝶々夫人名曲集 & 長崎のウタ コンサート」でも演奏されるそうです。そのコンサートは事前申し込みが必要ですが、無料コンサートということですので、興味がある方は合奏団のホームページ等で御確認ください。



### 【プログラム】

- 1 アイネクライネナハトムジーク
  - 2 トルコ行進曲  
(1、2ともモーツァルト作曲)
  - 3 パッヘルベルのカノン(パッヘルベル作曲)
  - 4 (低)リズム遊び(中・高)指揮体験
  - 5 プリンク・プランク・プランク
  - 6 フィドル・ファドル  
(5、6ともルロイ・アンダーソン作曲)
- アンコール：ラデツキー行進曲(ヨハン・シュトラウス1世作曲)

